



発行所
天理教祝梅分教会
千歳市祝梅 598
☎0123-29-2055
復刊第三十四号

一月 春季大祭 神殿講話

本日は春季大祭にご参拝くださり誠にありがとうございます。大教会長様には三月の月次祭にご参拝いただきたいとお願いをさせて頂いておられます。

このたびの「令和六年能登半島地震」によりお出直しになられた方々、ならびに関係の皆さま方に対し、お悔やみを申し上げます。

また、被災されました方々に對し、心からお見舞いを申し上げます。被災地域の皆様の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

現状は、新聞でお読みいただいたり、ニュースで聞かれたりしているかと思えます。何もできないと思う我々ですが、私達にはこのおつとめがあります。

いうインタビューも見ましたが、稀かもしれません。何とか復興へと心が前向きになってももらえるよう我々は願い、何かできる手助けをと思います。

私達は、思い通りにならないことは、いくつも経験しています。一生懸命やっているのに、何で御守護を下さらないのか、どうしてこんな目に遭わなければならないのかと思うのは当然です。

一生懸命に道を通っている者には、次々といろんなことが見せられることもあります。見せられた時にこそ、その時に上手に悟り成人の道に前を向けることができるか、道を通る上の千筋の一つかと思えます。

真柱様は一月四日の年頭のご挨拶で、「教祖百四十年祭は、私は前回の年祭にならって立教百八十九年一月二十六日、一日につとめさせていたいただきたいと思っています。」とおっしゃいました。

また、「前真柱様の年祭が今年出直して十年になりますので、十年

祭を命日である六月二十四日につとめさせていたいただきたいと思えます」と発表がありました。今年一年どうぞよろしくお願ひ致します。

祝梅分教会では、令和6年能登半島地震に際し、天理教教会本部の「天理教災害救援ひのきしん隊基金」に7万円を寄付しました。基金にご協力いただきありがとうございます。

この基金は、災害地での救援活動のさらなる拡充のために運営させています。

現在、石川教区をはじめ各教区から災救隊が派遣され復興支援をされています。

私たちも遠い地より復興を願っております。





心通りの守護

今月も美津志前会長が『陽気』平成10年1月号座談会の中でお話しした内容を、抜粋して編集させて頂きました。

司会―日々の求道の歩みの中で、心通りの御守護を実感されたご体験をお話し下さい。

私の先輩教会長さんが、かつて真柱様にご巡教いただきたいと念願して、朝起きますと、必ず家族全員で客間にかけてある真柱様のお写真にご挨拶申し上げていたんです。

それが何年も続いたある日、その地域を通られた真柱様がお立ち寄り、後日改めてご巡教を下されたそうです。

その話を先輩から聞いて、私も何か別の方法で真柱様をお迎えする理づくりをしようと考えまして

ね。月次祭の時、教祖の御前に真柱様と大教会長様のお座布団を敷き、祭儀に先立って参拝者、おつとめ奉仕者一同でご挨拶すること何年も実行したんです。

そして平成三年九月十三日、ご巡教いただきました。

司会―高橋先生の心通りに御守護いただかれたんですね。

そしてその時の随行の先生は、かつて修理人として私の教会にお泊まりくださった先生だったんです。

話は前後しますが、私、単独布教に出て八年三ヶ月後、理の親である兵神大教会の清水国雄前会長様のご命で、北海道の不振教会に養子に來たんです。

当時、私はどうやって教会を立ち直らせようかと考えましてね。

かつて信仰していたけど教会を離れた人、その家族の名前を全部書き出して名簿にし、毎日朝づとめ後、名前を読み上げて、「今日一日、大難を小難に、小難を無難にお連れ通りください。身上の方は

一日も早く健やかに、事情の方は、もつれた事情の糸が早くほぐれますように」と祈願したんです。

実行を始めて六年ほど経ったある朝、信仰が切れていたご婦人が突然参拝に見えたんです。前日、彼女の息子さんが車の事故を起こし、大きな事故だったのに打撲の軽い傷で済んだ。そこでふと神様にお参りしようと思いい立ち、重い腰を上げて朝づとめに來られたんです。

ところが朝づとめの後、頼んだ覚えもないのに息子の名前が読み上げられ、祈願されている。不思議な御守護をいただいたのはこのお陰だったと初めて身に沁みたと。そこから、教会は真実だということとが口コミで信者の間に伝わり、一人、二人と参拝者が増え、教勢の立ち直るきっかけとなったんです。

修理人先生が教会にお泊まられたとき、朝づとめの後、私が膨大な名前を読み上げているので、家内に「何してんだ」と聞かれたんですね。その時、家内から聞いた

話を、ご巡教の時に真柱様にお話しくださいました。

真柱様はこの時、人の幸せを願う一念を貫いたと言うことで、『一念貫行』とご揮毫くださいました。

司会―教会を離れた方々の名前を毎朝読み上げ、その幸せを祈願する。これは素晴らしい陰のおたすけの実行ですね。

見るもいんねん、聞くもいんねん。かつて教会に縁があったけれど信仰をやめ、教会を捨てた人、特にそうした方々のために幸せを祈ることが、ようばくのつとめだとの思いなんです。



司会―そうした中、神様の御守護はいくつもありましたでしょう。

はい。離れていた人がどんどん教会につながって来ました。私が出来た当初、月次祭に来る人は二、三人でしたが、今は少なくとも八十人は来てくださいます。祈願は今日まで三十八年、ずっと続けています。

司会―やはり神様は、誠実の心にお働きくださるんですね。

次は「心の一つで開けた世界」と言うことで、心の持ち方一つでご守護いただかれた話をお聞かせください。

私は昭和二十九年の春、前大教会長様のお声で布教の地を名古屋から東京に移したんです。

そのころ東京は戦後復興の半ばで空襲で家を焼かれ、職を失い、帰る故郷も持たない人たちが、日雇いや廃品回収などで生計を立て、肩よりそうて暮す集落が五つか六つありました。

私はその集落の一つに、前大教会長様の親心のお陰で、この住人に掘立て小屋を建ててもらったんです。間口一間、奥行き二間の、電気なし水道なし布団なしの住まいでした。

やはり食べ物に不自由でしたね。水ばかり飲んで過ごしてしましたら、集落から少し離れたお風呂屋の主人が「天理教の方、あなた食べ物食べてないでしょう。布教に歩きながら古板を拾ってきてくれたら、毎日一円で買ってあげよう」と言ってくれたんです。おかげで五日に一度、上野駅の公園入口で売っている、一杯五円の麦ご飯を食べることができました。

公園入り口には、物乞いがたむろしていました。次第にその中の一人と親しくなつてね。常日頃彼らを見ながら「この人たちも、この世で何か楽しいことがあるのだろうか」と疑問に思っていたので、なじみになった彼に勇気を出して聞いてみたんです。

そしたら彼は「俺にだって嬉しいことや楽しい事はあるさ。人に

物をもらったら一番嬉しい」と言ったんです。なるほどと思ってね。

その時にハッと頭に浮かんだのは、他人様が額に汗水流して働いた、その尊い賃金を施してもらいたい、そういう心通りの姿が、食べ物も着る物も住む所も与わらない姿である。それなら逆にどんな境遇の中でも、人様に喜んでもらうためにつとめていけば、食べ物も着るものも住む所もご守護いただけるんだと考えたんです。

ある日、日暮里駅の近くを歩いていたら、夕焼けの中、親子連れの四人が、線路を走ってくる電車の飛び込もうとしている姿がふと見えたんです。私は柵を乗り越え、走って一番後ろを歩いている奥さんをはがいにじめにして、間一髪で親子四人を助けたんです。

事情をお伺いしたところ、ご主人は、友人と二人で共同出資してタクシー会社を設立することになり、親兄弟から多額の金をかき集めて友人に渡した。ところがその友人が数日後、雲隠れしたんです。もう帰る家も親に合わせる顔

もない、と言うことで、家財道具を売り払い、そのお金で子供を遊園地で遊ばせ、無一文になって死ぬとしたと言うことでした。

そこで、私は親子を小屋へお連れしてましてね、住まいを明け渡し、名古屋で布教していた時のように、また野宿の生活に戻ったんです。そして翌日、ご主人をタクシー会社にお連れして、運転手として雇ってもらい、前借りして生計を立てるようにしたんです。

その後三ヶ月ほどして奥さんは親に手紙を出したんですね。金を借りたまま音信不通の娘を案じていた父親は、手紙で自殺するところを助けられたと知って、お礼を言いにこられたんです。



その時「先生はこの先ずっとこ
うゆう生活をなさるおつもりです
か」と聞くので「やがては神殿を
立てて、多くの人を救いたい」と
話したら、父親は不動産業をして
いて「娘や孫を助けていただいた
お礼に、その土地を斡旋いたしま
しょう」と言うことになり、千葉
の松戸に土地を借り、家を建てる
ことができたんです。

物乞いから学んだ、どんな中で
も人のために尽くしていけば、食
べ物も着るものも与えていただけ
ると言うことを実行したおかげで
すね。やがて前会長様から「お前
には、千葉の小さな家でなく大き
な北海道がよく似合う」と言われ
て北海道の教会へ行き、ここでも
三回ふしんをさせていただきまし
た。

やっばり心一つですね。もとも
と教祖は貧のどん底から救け一条
の道をつけられたんですからね。

司会―やっばり心通りの道なんで
すね。心は種ですから、蒔いた種
通りになってくる。しかも肥をお
かずにつくりとる。肥を置く必要

がないんです。ただただ明るい
種、喜びの種を蒔いていけば、一
粒万倍で帰ってくる。ありがたい
ですね。

時代がどう変わろうと、世上が
どうであろうとも、この道ほど素
晴らしい道はないし、この教えほ
ど確かな教えはありません。それ
を心にしっかり治めて、喜んで勇
んで通らせていただきたいと思い
ます。今日はありがとうございます
でした。

若人会総会 ご案内

- 【日 時】3月24日(日)
10:00~11:00
(受付9:30~)
- 【参加御供】200円
- 【内 容】祭儀式、おつとめ
(すわりづとめ、よろづよ八首)
- 【そ の 他】おつとめ参加者は教服またはハッピ
白ソックスの準備をお願いします。



布教の家週報録

十二月九日 高橋悟志

十二月に入り、名古屋もとても
寒くなってまいりました。

僕は十二月が集中して回れる最
後の時期だと思い、一層気を引き
締めて歩いています。寒さと闘い
ながら歩いています。新しい出
会いもあり毎日楽しいです。

一月の「お節会団参」や春季大祭
にも向けて、通い先の方をお誘い
したり、新規で声がけをしたりし
ています。

残り少なくなってきた布教の家での
生活ですが、悔いを残さないよう
に一生懸命させていただこうと思
います。



あとがき

美津志会長さんのお母さんは仏
教を信仰していましたが、必ず朝
は仏壇で読経した後、声を上げて
家族や、家族を取り巻く多くの人
たちの一日の健康や幸せを祈願し
ていたそうです。それを思い出さ
れて美津志会長さんも信者さんの
家族の名前を声を上げて読み、そ
して健康と幸せを祈願されるよう
になられたそうです。

それが真柱様から『一念貫行』
のご揮毫を戴くことに繋がったの
ですね。

今、会長もその『一念貫行』の
思いを大切に守り続けています。
その姿を美津志会長さんも、お母
さんも喜んでくださっているに違
いありません。

